

令和7年度 第3回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会議事録

日時：令和8年3月26日（木）13：00～14：30

場所：秋田県森林学習交流館プラザクリプトン 2階「第2会議室」

○秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会委員

内田 清文 （秋田県商工会青年部連合会 会長）
笠井 みち子 （秋田県消費者協会 監事）
熊谷 嘉隆 （公立大学法人国際教養大学 理事・副学長）
佐々木 沙弥香 （公募委員）
佐々木 文明 （藤里町長）
佐藤 充 （NPO法人 環境あきた県民フォーラム 理事長）
松本 昭広 （一般社団法人秋田県造園協会 会長）

○県側

永井 壯茂 （農林水産部森林技監）
小野 圭 （農林水産部森林環境保全課長）

○事務局（農林水産部森林環境保全課 調整・森林環境チーム）

小玉 正和 （チームリーダー）
金澤 正和 （副主幹(兼)サブリーダー）
齊藤 文誠 （副主幹）
山口 なつみ （技師）
加藤 玲奈 （技師）

1. 議 題

- (1) 令和8年度秋田県水と緑の森づくり税事業計画について
- (2) 令和8年度森づくり県民提案事業の審査について
- (3) 令和8年度基金運営委員会スケジュールについて

2. 情報提供

森づくり税活用事業報告：「第50回全国育樹祭について」

1 開会（小玉チームリーダー）

開会を宣言

2 あいさつ（永井森林技監）

秋田県農林水産部森林技監の永井と申します。よろしくお願ひいたします。

本日は、委員の皆様には、お忙しいところ、「第3回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会」にご出席いただき、厚くお礼を申し上げます。

また、皆様には、日頃より、県政の推進に格別のご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、先週、2月議会が閉会し令和8年度の当初予算が成立しました。来年度の「森づくり税事業」においては、ハード事業では、昨今のクマの大量出没という喫緊の課題に対し、県民の安全・安心を確保するため、「緩衝帯等整備事業」の予算を前年度比1.9倍へと大幅に増額いたしました。本事業については、前回の委員会でご報告したとおり、新たに創設された国の公共事業メニューも戦略的に組み合わせ、より効果的な整備を推進してまいりたい所存です。

また、ソフト事業においては、森林ボランティア団体や教育現場への活動支援を継続するとともに、来年度の「水と緑の森林祭」を大幅にリニューアルいたします。「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用の重要性を、次世代を担う層をはじめ、より幅広い県民の皆様にご体感いただけるよう、規模を拡大して開催したいと考えております。

さらに、森林整備事業も令和8年度の当初予算と令和7年度の補正予算と合わせて、令和8年の公共事業の執行分として、毎年27億円程度の森林整備事業に1億円プラスして28億円確保しました。非公共事業は、毎年3億円のところをプラス3億円して6億円確保しました。合計して、30億円のところを34億円、プラス4億円増額し、間伐などの事業をより強固に強化できるような予算としました。

前回説明しましたが、県は5%のシーリングがかかります。シーリングがかからないような、国からの補助金の上乗せを今回チャレンジしまして、成功しました。昨年は、なかなか森林林業も原木が行き渡らないような事態もありましたが、今年は同じ状況にならないような予算ができたと思います。税事業と関連事業を連携させて取り組んでいきたいと思ひます。

本日の委員会でございますが、「令和8年度事業計画」、「令和8年度県民提案事業の審査」などについてご審議いただきます。その後、全国育樹祭推進室より今年度から森づくり税を活用し実施している、「全国育樹祭開催準備事業」の内容について情報提供させていただきます。

皆様から多くのご意見やご提案をいただき、それを反映させることによって、本基金の運営を更に充実させていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をお願いいたしまして、あいさつといたします。

3 委員会の成立（小玉チームリーダー）

委員10名のうち7名の出席により委員会が成立していることを報告。

4 熊谷会長あいさつ

年度末のお忙しいところご参集くださいましてありがとうございます。

本日は議題3件、情報提供1件です。内容は議事録としてホームページに掲載されます。その際には皆様の名前も記載しますのでご承知おきください。

5 議題（1）

熊谷会長

議題1 令和8年度秋田県水と緑の森づくり税事業計画について事務局から説明をお願いします。

事務局（山口技師）

資料1 令和8年度秋田県水と緑の森づくり税事業計画について説明

熊谷会長

説明ありがとうございました。
ご質問等ありますでしょうか。

佐々木（文）委員

県営の緩衝帯等整備事業と、その他の補助事業での緩衝帯等整備事業の違いは何ですか？なぜ予算が分かれているのでしょうか。

事務局（山口技師）

下刈りや除伐などの実施内容は同じですが、事業主体が異なります。市町村や林業事業体が申請して行うものが補助事業、県が発注して行うものが県営事業となっております。

小野森林環境保全課長

補足説明させていただきます。

緩衝帯等整備事業については、国庫補助金を活用することもできるようになりました。しかし、国庫補助事業は、100%の補助ではなく、事業主体分の持ち出しが出ます。その事業主体の持ち出し分が860万円ということになります。そして、県営の緩衝帯整備事業の64ha、約1400万円の部分については、国庫補助事業では、調査・測量ができませんので、その分を森づくり税で実施することになります。

熊谷会長

他に質問ありますか。
次の議題に移ります。

6 議題（2）

熊谷会長

議題2 令和8年度森づくり県民提案事業の審査について事務局から説明をお願いします。

事務局（加藤技師）

資料2 令和8年度森づくり県民提案事業の審査について説明

熊谷会長

ありがとうございます。22件中5件が新規で、森林環境学習が12件と過半数を占めています。初期の頃は植林などの森づくり活動が圧倒的に多かったと記憶していますが、活動内容が変化してきていると感じます。昨年は、26件あり、昨年応募してきた団体が今年は応募してこなかったということもあると思います。応募しなかった理由について、何か推測できるものがあれば教えてください。

事務局（加藤技師）

森づくり県民提案事業は、応募団体に対して、3年採択になると、森林ボランティアとして登録してもらい、森林ボランティア活動支援事業を使っていたきたいという意図があります。森づくり県民提案事業で応募してきた団体が、次の年に、森林ボランティア活動支援事業として申請してくるという状況は推測できます。

熊谷会長

なんらかの形で活動が連続しているのであれば、良いことだと思います。

意見等ありますか。

笠井委員

子ども中心の提案があり、とてもうれしいです。最近、子どもたちの森の中での活動が少なくなっていると聞きますが、今回の提案は、子どもたちに対しての木育活動があり、良いと思いました。また、クマ対策についても、ドローンなどを使った対策があり、素晴らしいと思います。

熊谷会長

若い時から、理屈抜きで森に触れる機会があるのは、あるべき方向だと思います。

他に質問等ありますか。

内田委員

募集期間について、今回応募期間を延ばすことができなかった理由を教えてください。

事務局（加藤技師）

前回の委員会の意見を反映させる作業や、1次・2次審査に時間を要すること、第3回委員会

に間に合わせるための逆算として現状の期間となっています。

内田委員

応募締め切りが1月末だとすると、始まりを6月や7月にして、応募期間を延ばすことは可能でしょうか。

事務局（加藤技師）

現在できる方法は、2つあります。1つ目が、募集要領について皆さんから意見をいただく機会を第1回基金運営委員会で行うこと。2つ目が、第2回の基金運営委員会を少し早めることです。

内田委員

ありがとうございます。

熊谷会長

募集要項の決定や情報発信の時期を早めるなどの工夫について、来年度第1回委員会の議題として検討してはどうかと思います。

内田委員

22番の安部耳鼻咽喉科医院について、炭焼きの活動とクマ対策の活動を提案しているが、それぞれ関連しているのか、また、過去の事業と今回のクマ対策の事業については関連があるのでしょうか。

事務局（加藤技師）

過去は森林環境学習が主でした。今回は炭焼きイベントで出た「木酢液」を忌避剤として活用する実証実験を行うため2つの活動には関連があります。

内田委員

同じ団体について、超音波を使うというのは、具体的にどのような活動でしょうか。

事務局（加藤技師）

阿部耳鼻咽喉科医院で持っているフィールドの木にスピーカーを設置し、クマが苦手とする超音波を流すと、クマが寄ってこないのではないかという実証実験の1つです。

内田委員

クマ対策について、効果があったかは実績報告等で確認するということでしょうか、

事務局（加藤技師）

補助団体は、実績報告を出すことを義務づけています。その中で、効果があったか報告してもら

い、こちらの方でも、確認できるようにしています。

内田委員

ふるさと元気塾について、ドローンを活用して、クマが出没しやすい所を特定するという事業内容について、詳しく説明していただきたいです。

事務局（加藤技師）

空撮によってクマの餌となる柿などの位置を 3D マップ化して住民と共有し、地域で下草刈り等を行う内容です

佐藤委員

前に比べると企業からの応募が増えていると感じます。企業の体力やマンパワーを活用している地域の活動は多いと思います。こうした企業からの応募についても、一定程度の評価していくことが事業を進める上で大事な視点だと思います。

熊谷会長

初期は圧倒的に森づくり活動が多く、現在は森林環境学習活動が多いと言うことで明らかに申請主体が変わってきていることを感じます。また、企業の応募も多くなってきて、森林に関わる人たちが多様になってきています。様々な人たちが増えていくことは、事業の発展性や持続性を考えるととてもいい方向に向かっていると感じます。これから、ハード事業やソフト事業、特に県民提案事業に力点を置いてやっていこうという議論が将来的に出ても良いと考えました。

松本委員

17 番の門脇商店について、広葉樹の植栽がありました。どのような樹種を植えるか教えてください。以前、同じ場所に行ったときに、3 年ほど前に伐った、ホオノキ、ナラノキ、ヤマザクラが自然と生えてきて、3 m ほどになっていたの、あえて植栽するのであれば、どのような樹種を植えるのでしょうか。

事務局（加藤技師）

植栽予定の樹種は、シラカバ、ヤマハンノキ、カツラです。

永井森林技監

伐採跡地に自然と広葉樹は入りますが、それだけでは単なる雑木林になる可能性があります。目指す理想の森にするため、目的を持った植樹には意義があると思います

熊谷会長

これまで 20 年ほど事業をやってきた中で、成功事例もあれば課題が残った事業もあると思います。そのようなものを抽出して共有すれば申請の質も上がると思います。報告書を提出する際な

どに団体の負担にならない範囲で聞き取りなどをして、事業の整理をするなどの検討もお願いします

では、令和8年度森づくり県民提案事業について、22件すべて採択ということで進めてください。

7 議題（3）

熊谷会長

議題3 令和8年度基金運営委員会スケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局（山口技師）

資料3 令和8年度基金運営委員会スケジュールについて説明

熊谷会長

ありがとうございます。

視察先の候補はありますか。また、県民提案事業のスケジュールの件も第1回で議題にできま
すか。

事務局（山口技師）

現在、視察先は未定です。スケジュールの件は検討いたします。

熊谷会長

私のほうからも、候補地を出していきたいと思います。

他に質問等ありますか。

8 情報提供 森づくり税活用事業報告

熊谷会長

森づくり税活用事業報告を全国育樹祭推進室からお願いします。

全国育樹祭推進室 春日チームリーダー

資料4 森づくり税活用事業報告：「第50回全国育樹祭について」を説明

熊谷会長

ご質問等ありますか。

平成20年の植樹祭にも参加しましたが、当時の天皇陛下が植えられた木が成長しているのを見
ると感慨深いです。育樹祭も大成功させる必要があると気が引き締まります。

ありがとうございます。

その他ということで、事務局から連絡事項等ありますか。

事務局（小玉チームリーダー）

基金運営委員会委員の任期についてですが、2年としており、今年度で一旦終了となります。公募委員については、1月～2月にかけて県の共同公募を実施したところ、2名の募集に対して、3名からの応募があり、部内の審査会で審査し新たに2名を選考しました。

現在の公募委員である池田委員と佐々木沙弥香委員につきましては今回で委員を退任されます。それでは佐々木沙弥香委員から一言お願いいたします。

佐々木（沙）委員

2年間ありがとうございました。森林づくりや資源の活用が地域や子供たちの暮らしにいかに大切かを実感いたしました。昨年は、仕事以外でも多くの変化を感じることがありました。熊の出没も多く、猛暑の影響でどんぐりも少なくなり、また松枯れの影響も海岸の防風林だけでなく街中でも感じられまして、松ぼっくりが少なくなっているという状況がありました。その影響で、地域で暮らす中でも、子どもたちが保育園でどんぐりを拾う機会が減っていたり、熊対策のために外遊びを禁止されたりと、これまで当たり前だったことが少しずつ変わってきたと感じています。だからこそ、自然の中で学べることがたくさんありますし、「今まで通り」ということの大切さを改めて感じております。秋田の森は資源だけでなく、地域の暮らしや文化、そして子どもたちの成長にも深く関わっていると認識しております。

林業という仕事で森を育てていくという視点と、この森林環境で子育てをしていくという視点、両方を大切にしながら森林の維持や循環につなげていけたらと思います。今回で退任となりますが、2年間大変貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。引き続き現場から秋田の森に関わっていきたくと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

事務局（小玉チームリーダー）

ありがとうございました。今後とも秋田の森づくり活動にご協力をお願いしたいと思います。

また、加賀谷委員、佐々木文明委員についても委員の任期満了ということで、今回で委員を退任されます。

それでは佐々木文明委員から一言お願いいたします。

佐々木（文）委員

秋田県町村会からの選任で、五城目町の渡邊前町長の代わりとして、1年間参加させていただきました。本来は副会長が担当するのですが、町の面積の多くを山林が占めているなどの理由から私が選ばれたという背景がございます。

1年という短い期間で、十分な貢献ができず申し訳なく思っております。当町は世界自然遺産『白神山地』のふもとにあります。機会がございましたらぜひ一度当町へ来ていただければ幸いです。短い間でしたけれども、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

事務局（小玉チームリーダー）

ありがとうございました。4月以降は新たに東北税理士会秋田県支部連合会と秋田県市長会事務局から委員を推薦していただくこととしております。

今回退任されるみなさま、これまで本当にありがとうございました。事務局からは以上です。

熊谷会長

佐々木委員、佐々木町長、本当に今までありがとうございました。

また新しい体制で、引き続き皆さんのお知恵をいただきながら、秋田の森をしっかりと活用して次世代に残していくよう、全力を尽くすつもりですので、また色々なアドバイスをいただければと思います。

それでは本当に皆さん、年度末のお忙しいところありがとうございました。これで終了いたします。ありがとうございました。

9 閉会

事務局（小玉チームリーダー）

熊谷会長、ありがとうございました。

また、委員の皆様には、活発なご議論や貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

今回の議事の内容については、議事録（案）を作成し、後日、委員の皆様にお送りしますので、ご確認いただきたいと思います。

次回の委員会は7月に開催する予定としております。

開催日につきましては、後日、調整させていただきますので、ご出席をお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、「令和7年度第3回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会」を閉会いたします。

お帰りの際は、車の運転等に十分お気を付けください。

本日は、ありがとうございました。